

平成 29 年度  
神戸大学 国際人間科学部 発達コミュニティ学科  
アドミッション・オフィス入学試験  
身体運動受験 第 1 次選抜  
身体運動に関する能力の検査 1

【筆記試験】(150 点)

試験時間：150 分

## 【問題 1】

これまで、あなたは自らが所属するクラブや団体の中で身体運動やスポーツに関する競技・活動とどのようにかかわり、競技力向上を目指してきましたか。また、それらを今後の大学生活でどのように活かしたいと考えていますか。

次に示す指定語句をすべて用いて記述しなさい。ただし、競技成績に関する事項を記述する必要はありません。(配点 30 点)

指定語句：指導者、スポーツ科学、リーダー、コミュニケーション

## 【問題 2】

次の文章を読んで、設問に答えなさい。(配点 60 点)

出典：オットー・J・シャンツ，「スポーツにおける（ア）と差別」，日本体育学会第 66 回大会・学会本部企画キーノートレクチャー配布資料，2015 年，pp. 15-16 を一部改変。

(注) ユースオリンピック：ジャック・ロゲ IOC 会長が 2007 年に提案した，ユース世代のアスリートを対象とした国際総合競技大会。第 1 回夏季大会は 2010 年にシンガポールで，第 1 回冬季大会は 2012 年にオーストリアで開催された。

\* 問題資料は非公開

[設問 1] 文中の（ア）から（オ）に入る語句として最も妥当なものを，①～⑤のうちからそれぞれ一つ選び，解答欄にその数字を記入しなさい。

- |     |          |         |      |      |       |
|-----|----------|---------|------|------|-------|
| (ア) | ①持続可能性   | ②地域性    | ③国際性 | ④画一性 | ⑤多様性  |
| (イ) | ①パラリンピアン | ②アルピニスト | ③武道家 | ④難民  | ⑤政治家  |
| (ウ) | ①UNESCO  | ②IOC    | ③CAS | ④IOA | ⑤WADA |
| (エ) | ①16      | ②17     | ③18  | ④19  | ⑤20   |
| (オ) | ①世界      | ②北米     | ③南米  | ④東洋  | ⑤西洋   |

[設問 2] スポーツにおける差別を減らしていくための方策に関する著者の見解をまとめなさい。

[設問 3] 下線部に示されているように、2014 年ユースオリンピック南京大会で実施された競技のうち、次の 14 競技に男女混合種目が含まれていました。

陸上競技、水泳、テニス、自転車、卓球、馬術、フェンシング、柔道、バドミントン、射撃、近代五種、アーチェリー、トライアスロン、ゴルフ

ただし、サッカー、バスケットボール、ホッケーなどの集団で行われるボールゲームでは、男女混合種目は実施されませんでした。

また、オリンピックの改革工程一覧『オリンピックアジェンダ 2020』（IOC, 2014 年）には、次の改革案が明記されていました。

提言 11 男女平等を推進する。

1. IOC は国際競技連盟と協力し、オリンピック競技大会への女性の参加率 50%を実現し、オリンピック競技大会への参加機会を拡大することにより、スポーツへの女性の参加と関与を奨励する。
2. IOC は男女混合の団体種目を奨励する。

しかしながら、2016 年オリンピックリオデジャネイロ大会で実施された 28 競技 306 種目のうち、男女混合によるものは、わずかに次の 4 競技 9 種目のみでした。

セーリング（10 種目中 1 種目）、バドミントン（5 種目中 1 種目）、テニス（5 種目中 1 種目）、馬術（6 種目すべて男女の区分なし）

2014 年ユースオリンピック南京大会と、2016 年オリンピックリオデジャネイロ大会における以上の事実と、上記の設問 2 にまとめられた著者の見解を踏まえて、次の主張について、(A) から (C) の形式に沿って論評しなさい。

論評する主張：すべてのオリンピック競技に男女混合種目が導入されるべきである。

論評の形式：(A) 是か非か、いずれの立場を支持するのかを明記する。

(B) 是とする立場、非とする立場の両者の、妥当な点と問題点を検討する。

(C) 最終的な結論をまとめる。

### 【問題 3】

次の文章を読んで、設問に答えなさい。(配点 60 点)

男性ホルモンや女性ホルモンの基になる前駆体<sup>(注1)</sup>のホルモンは図1のように加齢とともに低下していきます。男性では、10代では平均2560pg/mL<sup>(注2)</sup>あり、ピーク時の20代では、約3670pg/mLになります。その後、30代では約3480pg/mL、40代では2500pg/mL、50代では1500pg/mL、60代では1460pg/mL、70代では500pg/mLにまで減少します。女性では男性に比べて性ホルモンの前駆体濃度は低く、10代では1480pg/mL、ピーク時の20代では2500pg/mL、30代では1560pg/mL、40代は1120pg/mL、50代は780pg/mL、60代、70代は500pg/mLに減少しています。

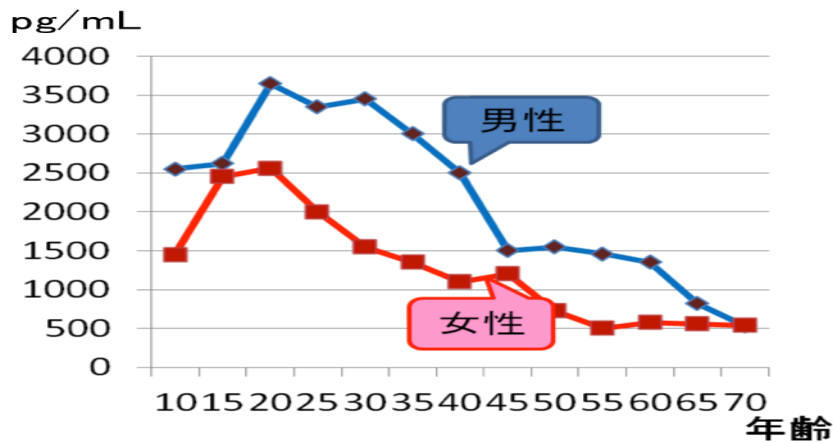


図1 性ホルモン前駆体<sup>(注1)</sup>濃度の加齢による変動

図2は、40歳時の発症リスクを1として、その後の生活習慣病(虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、骨粗鬆症等)の相対リスクを表しています。

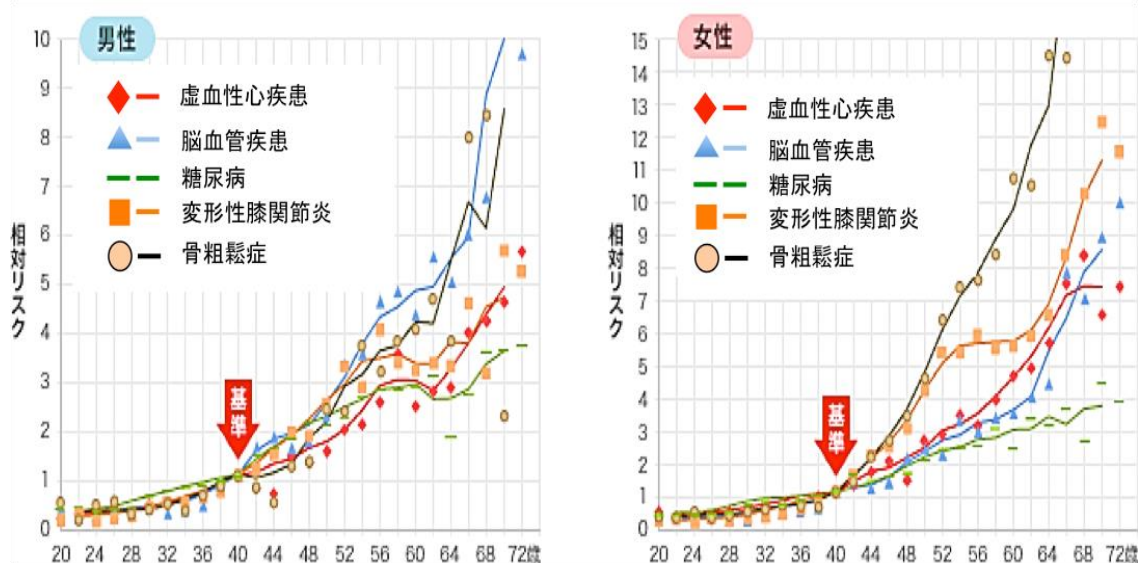


図2 生活習慣病の相対リスク (40歳時の発症リスクを1とする)

出典：佐藤幸治，「DHEA(dehydroepiandrosterone)と骨格筋糖代謝活性」，第10回日本抗加齢医学会総会シンポジウム資料，2010年(図2，<http://aging-lab.jp/risk/data.html>を改編)

(注1) 前駆体：ある化学物質について、その物質が生成する前の段階の物質のことをいう。

(注2) 1pg/mL= 0.000000001 mg/mL

[設問1] 性ホルモン(男性ホルモン，女性ホルモン)は加齢による影響を受け，様々な「老化現象」を引き起こします。この「老化」に関して「機能的変化」「形態的变化」という語句を必ず用いて説明しなさい。

[設問2] 図1と図2の関連性をより明らかにするためにはどのようにすればよいか，具体的に説明しなさい。

[設問3] y軸に異なる指標を採用して図1を書き直し，男性，女性それぞれの，加齢による性ホルモン前駆体の濃度の変化が，より明確になるグラフを作成しなさい。

[設問4] 日本では，平成27年度の総医療費が41兆5000億円で，糖尿病の医療費は8兆円を越えると言われていています。また，現在，医療費だけでなく，平均寿命と健康寿命の差が問題となっています。その差は，日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味し，2010年の厚生労働省の調査では男性9.13年，女性12.68年でした。以上のことから，図2をふまえて，疾病予防と健康増進によって，平均寿命と健康寿命の差を短縮し「健康な期間」を延伸するためにどのような取り組みが必要か答えなさい。